

上条 報告

第63号
平成26年8月

甲州市教育委員会
☎32-5097

石川県金沢市の重伝建地区

◆◆東山ひがし・卯辰山麓・主計町◆◆

石川県金沢市は「加賀百万石」と称されるとおり、大変賑やかな都市です。名勝の兼六園は観光旅行の定番で、一度はご覧になったことがあるのではないのでしょうか。

金沢市は、現在国内で景観保護に関する行政施策が最も進んでいる自治体の一つでもあります。兼六園に隣接する金沢城は近年整備が進み、既存の石川門の修理や、橋爪門・五十間長屋・菱櫓などが復元されました。また、兼六園・金沢城に接して金沢21世紀美術館が開館し、自由な展示や作品内容に対し高い評価を得ています。

市内にはさらに、金沢城周辺が重要な文化的景観「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」に選定され、加えて重要伝統的建造物群保存地区が四ヶ所も所在します。



ご存知、兼六園。



石川城内に復元された五十間長屋。

金沢市東山ひがし（茶屋町）

所在地	石川県金沢市東山1丁目の一部
種別	茶屋町
条例制定年月日	昭和五十二年三月二十八日
選定年月日	平成一三年五月一日
地区面積	約一・八ヘクタール
保存物件数	建築物 九二件 工作物 六件 環境物件 八件

金沢は天正十一年（一五八三）に前田利家が入府して以降、本格的な城下町建設が行われました。現在の市街地中心部の原形は十七世紀後半に整ったとされ、江戸・大阪・京都に次ぐ大都市として、伝統工芸や芸能が発達しました。城下町の証は、今でも用水や堀、放射道路、広見、細街路などにみることができます。ひがしは、文政三年（一八二〇）に犀川畔の「にし」とともに開設が公許された茶屋町です。一階を揃いの出格子とし、背の高い二階建の茶屋様式の町屋が軒を連ねた様子は、京都の祇園新町と同様に茶屋文化を伝えています。



通りの両側に同じ様式の建物が軒を連ねています。向こうに見えるのは卯辰山で、ひがしに近接して「卯辰山麓」の重伝建地区があります。

金沢市主計町（茶屋町）

所在地	石川県金沢市主計町の一部
種別	茶屋町
条例制定年月日	昭和五十二年三月二十八日
選定年月日	平成二〇年六月九日
地区面積	約〇・六ヘクタール
保存物件数	建築物 三四件 工作物 一件 環境物件 五件



細い路地に建物がひしめきあっていますが、造りは新しい分垢抜けしています。



重要文化財「志摩」は、ひがし公設当初（文政3年）の建築です。



建物は商業施設として使われている例が多く、入り口も古い形式で修理されています。

主計町は「ひがし」と同じ茶屋町として、明治期に成立したものと考えられています。茶屋建築の特徴はひがしと共通しますが、明治後期から昭和初期にかけて三階建に増築されるなど、時代の特徴を反映しています。



浅野川越しの風景。

街中は狭い路地を挟んで建物が隙間なく建てられ窮屈な感じですが、浅野川から眺める景色はとても良好です。

金沢市卯辰山麓（寺町）

所在地	石川県金沢市鶯町、子来町、東山1丁目、東山2丁目および山の上の各一部
種別	寺町
条例制定年月日	昭和五二年三月二八日
選定年月日	平成二三年一月二九日
地区面積	約二二・一ヘクタール
保存物件数	建築物 二二二件 工作物 四五件 環境物件 一三件

卯辰山麓には城下町の建設過程において、加賀藩により寺院群が形成されました。伝建地区はこの寺院群を中核としますが、実際には寺院群を中心にかなり広い範囲を対象としており、先述した「東山ひがし」地区は、本保存地区内に取り込まれています。

今なお伝統的な寺社や町屋の建物をはじめ、町割りや街路が残されており、そこに息づく信仰や民俗文化とともに落ち着いたたたずまいをみせています。



地区内には 39 の寺社、800 の町屋があります。

卯辰山麓を巡る曲折した街路に沿って、伝統的な石垣を伴った寺社が建ち、町屋と渾然一体となった町並みは他に例をみません。



寺院群をつなぐ路地と石垣。



- 金沢城および兼六園をメインに、城下町をそっくり保護するため、町並みが残っている場所は伝建地区に、そうでないところは文化的景観にと、いろいろ工夫している様子がわかります。
- 金沢城などは、文化財の補助事業として復元工事を実施しています。